

小麥調査基準

第 1 版

1986. 3

農業研究センター

は　し　が　き

作物の試験研究を進めるうえで、調査基準が不可欠なものであることはいうまでもない。またそれが、客観的、普遍的な内容をもつものでなければならぬことも言をまたない。

このような観点からみると麦に関する最も普遍的な調査基準といえるものは、昭和10年に農事試験場で作成された小麦新品種育成試験に関する調査基準ということになろう。もちろん、その後も国あるいは公立の試験研究機関等でそれぞれ調査基準というべきものを作成、使用しているが、多くはこれを原型としたものであり、また必ずしも全国を対象とするような普遍的なものにはなっていない。

一方、近年の麦作及びそれに対応する試験研究は当時とは大きく変化し、従来の調査基準では対応し難い場面も多く出てきている。このような状況の中で麦類の研究者が相寄り、新たな視点に立った調査基準の策定をはかってきたことは時宜を得たことといえよう。

今回これらのうち、小麦について取まとめが終ったので、ここに印刷、配布することとした。御利用頂ければ幸いである。

1986年3月

農業研究センター所長

岸　國　平

目 次

小麦調査基準項目一覧表

凡 例

A. 【発芽および出芽調査】	肌色	1 ~ 6 ページ
B. 【生育期調査】	黄色	7 ~ 27
C. 【収穫期調査】	緑色	28 ~ 35
D. 【収量関係調査】	青色	36 ~ 49
E. 【品質関係調査】	紫色	50 ~ 56
F. 【特性調査】	桃色	57 ~ 74

付 1 ~ 付 3

さ く い ん

小麦調査基準項目一覧表

調査形質項目	番号	調査形質項目	番号	調査形質項目	番号	調査形質項目	番号	調査形質項目	番号
A. 【発芽および出芽調査】		最高分けつ期	7	茎立期	33	晩霜害	59	根数	22
発芽始	1	有効分けつ決定期	8	* 茎立性	34	風害	60	D. 【収量関係調査】	
発芽期	2	有効分けつ期間	9	穂孕期	35	酸性の害	61	収量性	1
発芽揃	3	分けつ終期	10	節間伸長開始期	36			1穂重	2
発芽日数	4	無効分けつ期間	11	出穗始	37	C. 【収穫期調査】		1穂粒重	3
発芽良否	5	生葉数	12	* * 出穗期	38	稈の剛柔	1	穗重歩合	4
発芽整否	6	出葉期	13	出穗まで日数	39	* * 稈の細太	2	1株穗重	5
発芽勢	7	出葉転換期	14	出穗促進日数	40	* * 株の開閉	3	平均1穂重	6
発芽率	8	葉の黄化期	15	出穗遅延日数	41	* * 穗発芽性	4	1株粒重	7
出芽始	9	葉の寿命	16	穂揃期	42	* * 穂長	5	地上部生体重	8
出芽期	10	枯葉数	17	穂揃日数	43	穂数	6	乾物重	9
出芽揃	11	* * 葉色	18	開花期	44	m ² 当たり穗数	7	地上部風乾重	10
出芽日数	12	葉齡	19	乳熟期	45	有効穂数	8	乾物重歩合	11
出芽良否	13	葉齡指数	20	黃熟期	46	m ² 当たり有効穂数	9	風乾重歩合	12
出芽整否	14	葉身長	21	* * 成熟期	47	有効穂数歩合	10	風乾重	13
出芽數	15	葉身巾	22	結実日数	48	遅れ穂数	11	稈基重	14
m ² 当たり出芽数	16	葉鞘長	23	生育日数	49	m ² 当たり遅れ穂数	12	稈重	15
出芽後の生育の良否	17	葉面積	24	被害発生状況	50	被害穂数	13	m ² 当たり稈重	16
		葉面積指数	25	倒伏の程度	51	m ² 当たり被害穂数	14	根重	17
B. 【生育期調査】		生育良否	26	虫害	52	* * 穂の抽出度	15	有効茎歩合	18
草丈	1	越冬株歩合	27	病害	53	* * 稈長	16	1穂小穂数	19
茎数	2	幼穂形成始期	28	寒害	54	平均稈長	17	m ² 当たり小穂数	20
m ² 当たり茎数	3	幼穂形成期	29	旱害	55	節間長	18	平均1穂当たり小穂数	21
分けつ数	4	幼穂長	30	湿害	56	地中茎長	19	被害小穂数	22
分けつ開始期	5	減数分裂期	31	雪害	57	総根長	20	m ² 当たり被害小穂数	23
分けつ最盛期	6	起生期	32	凍霜害	58	根長	21	稔実小穂数	

調査形質項目	番号	調査形質項目	番号	調査形質項目	番号	調査形質項目	番号	調査形質項目	番号
稔実小穂数歩合	24	原麦粗蛋白質含量	6	葉舌の有無	10	*耐寒性	36		
不稔実小穂数	25	60%粉粗蛋白質含量	7	葉鞘のワックスの多少	11	耐雪性	37		
小花数	26	60%灰分含量	8	葉鞘の毛の有無・多少	12	耐湿性	38		
m ² 当り小花数	27	粉の白さ	9	葉身の下垂度	13	*耐凍上性	39		
1穂粒数	28	粉の明るさ	10	フレッケンの有無・多少	14	*継萎縮病抵抗性	40		
1小穂当り粒数	29	粉の色づき	11	薬の色	15	萎縮病抵抗性	41		
稔実粒数	30	吸水率	12	稈のワックスの多少	16	*赤かび病抵抗性	42		
整粒歩合	31	バロリメーターバリュウ	13	**芒の有無・多少	17	**うどんこ病抵抗性	43		
全重	32	生地の力の程度	14	芒の色	18	**赤さび病抵抗性 ①	44		
a 当り全重	33	(エキステソンの面積)		芒の粗滑	19	" ②	45		
子実重	34	伸長抵抗	15	*芒の長短	20	" ③	46		
屑麦重	35	伸長度	16	頂毛部の大きさ	21	" ④	47		
a 当り子実重	36	形状係数	17	**稃色	22	" ⑤	48		
a 当り屑麦重	37	最高粘度	18	**稃毛の有無	23	*黒さび病抵抗性	49		
** 1 ℓ 重	38	麸質含量	19	根色	24	虫害抵抗性	50		
** 千粒重	39	F. 【特性調査】		ワックスの多少	25	細胞質雄性不稔遺伝子	51		
整粒千粒重	40	**播性の程度	1	* *穗型	26	の有無			
屑麦千粒重	41	**春播・秋播の別	2	小穂の開張度	27	稔性回復遺伝子の有無	52		
千粒重増加状況	42	鞘葉の色	3	* *粒着の粗密	28				
E. 【品質関係調査】		叢性	4	* *粒形	29				
粒の黒目の有無・多少	1	葉の柔剛	5	* *粒の大小	30				
粒の品質	2	止葉の形	6	* *粒の色	31				
**原麦粒のみかけの品質	3	止葉の大小	7	* *粒の硝子質の程度	32				
製粉歩留	4	葉耳の有無	8	* *脱粒性	33				
ミリングスコア	5	葉耳の色	9	* *粒の硬軟	34				
				* *耐倒伏性	35				

凡

例

調査形質番号	形質	1 定義	(小麦種苗特性分類と審査基準における標準品種)			
		2 備考	寒地 寒冷地 溫暖東－1 溫暖東－2 溫暖西部 暖地			
必須度区分 (項目番号)		3 調査方法	階 1			
		4 単位	級 2			
		5a 調査の場合の最小桁	区 3			
		5b 平均した場合の最小桁	分 4			
			5			
			6			
			7			
			8			
			9			
必須度区分欄の記号 : * * 小麦種苗特性分類と審査基準における必須特性項目						
		*	" 条件付き必須特性項目			
(項目番号) :			項目番号			
階級区分 :			階級区分			
寒 地 : 北海道地方						
寒 冷 地 : 東北・北陸地方						
温 暖 東 - 1 : 関東・東海地方						
温 暖 東 - 2 : 東山地方						
温 暖 西 部 : 近畿・中国・四国地方						
暖 地 : 九州地方						

A. 【発芽および出芽調査】

A. 【発芽および出芽調査】

(1)

1. 発芽始 1 始めて発芽を認めた日

2

Beginning of 3 観察

germination 4 月日

5a 1

5b 1

2. 発芽期 1 播種粒数の40~50%が発芽した日

2

Germination 3 観察

stage 4 月日

5a 1

5b 1

3. 発芽揃 1 播種粒数の80~90%が発芽した日

2

Full germination 3 観察

stage 4 月日

5a 1

5b 1

A. 【発芽および出芽調査】

(2)

4. 発芽日数 1 播種期の翌日から発芽期までの日数

2

Number of days 3 算出
to germination 4 日
5a 1
5b 1

5. 発芽良否 1 発芽の良し悪し
2 発芽歩合 80 %以上良，60%以下を不良，その中間を中とする

Degree of 良：1 (80%以上) , 中：3 , 不良：5 (60%以下)
germination 3 観察

4

5a

5b

6. 発芽整否 1 発芽個体の分布の状況
2 発芽個体の分布状況の均一なものを整，不均一なのを不整，その中間を中とする

Uniformity of 整，中，不整
germination 3 観察

4

5a

5b

A. 【発芽および出芽調査】

7. 発芽勢 1 播種粒数に対する発芽粒（20°Cで72時間以内に発芽発根した粒）の割合
 2 100 粒 3 反復以上
 Germination 9 cm シャーレ東洋濾紙No.2を2枚しき、100 粒を置床し純水4～5 mlを注入
 rate 3 測定
 4 %
 5a 1
 5b 0.1

8. 発芽率 1 播種粒数に対する発芽粒（20°Cで7日以内に発芽発根した粒）の割合
 2 100粒 3 反復以上
 Germination 3 測定
 percentage 4 %
 5a 1
 5b 0.1

9. 出芽始 1 始めて出芽を認めた日
 2 播種前後の降雨及び温度に関する記録を明らかにしておくこと
 Beginning of 3 観察
 seedling 4 月日
 emergence 5a 1
 5b 1

A. 【発芽および出芽調査】

(4)

10. 出芽期 1 発芽可能粒数（播種粒数 × 発芽率）の40～50%が出芽した日

2

Seedling 3 観察
emergence 4 月日
stage 5a 1
5b 1

11. 出芽揃 1 発芽可能粒数の80～90%が出芽した日

2

Full seedling 3 観察
emergence 4 月日
stage 5a 1
5b 1

12. 出芽日数 1 播種期の翌日から出芽期までの日数

2

Number of days 3 算出
to seedling 4 日
emergence 5a 1
5b 1

A. 【発芽および出芽調査】

(5)

13. 出芽良否

 - 1 出芽の良し悪し
 - 2 発芽歩合 80 %以上良，60%以下を不良，その中間を中心とする
良：1 (80%以上) , 中：3 , 不良：5 (60%以下)
 - Degree of seedling emergence
 - 3 觳察
 - 4
 - 5a
 - 5b

14. 出芽整否
Uniformity of seedling emergence

 - 1 出芽の個体の分布の状況
 - 2 出芽個体の分布状況の均一なものを整, 不均一なものを不整, その中間を中とする
整, 中, 不整
 - 3 観察
 - 4
 - 5a
 - 5b

15. 出芽数

Seedling number

1 地上に出現した芽の数

2 点播の場合には出芽が中庸な連続した株、条（畦）の長さは、4か所の合計が1m以上になるようにする
散播では50cm角の株5か所の合計
但し、1m以上でも播種粒数が300粒以下の場合は300粒以上となる面積とする。

3 測定

4 本

5a 1

5b 1

A. 【発芽および出芽調査】

(6)

16. m ² 当り出芽数	1 m ² 当りの出芽数
	2
Seedling	3 算出
number	4 本
per m ²	5a 1
	5b 1

17. 出芽後の生育の良否	1 出芽後約1か月間（生育初期の期間）の生育の良否
	2 良、並、不良で表わし、平年の生育程度を並とする
Degree of initial growth after emergence	必要であれば徒長ぎみなど生育状況についても記録する
3 観察	
4	
5a	
5b	

B. 【生 育 期 調 査】

B. 【生育期調査】

(7)

- | | |
|--|---|
| 1. 草丈
Plant length | 1 立毛の場合は地際から葉先までの長さ、抜取りの場合は、根際から葉先までの長さ
成熟期の草丈は稈長+穂長とする
2 条播は生育中庸な4か所50cm間につき10cmごとに最高茎1本づつ測定、計20本
散播は生育中庸な4か所50cm角につき5株の最高茎1本づつ測定、計20本
3 測定
4 cm
5a 1
5b 1 |
| 2. 茎数
Stem number | 1 分げつ節の葉鞘よりぎっ子の先端の現われたものを分げつとし（葉鞘の側方よりぎっ子の現われたものを含む）これに主稈の数を加えたもの
2 条播では50cm間4か所、4か所の合計が1m ² 以下である場合は1m ² 以上になるまで個所数を増加する
散播50cm角5か所測定
3 測定
4 本
5a 1
5b 1 |
| 3. m ² 当り茎数
Stem number per m ² | 1 m ² 当りの茎数
2
3 算出
4 本
5a 1
5b 1 |

4. 分げつ数 1 茎数から主稈を差し引いた数
 2 茎数調査に準ずる個体で算出する
Tiller number 3 算出
 4 本
 5a 1
 5b 1

5. 分げつ開始期 1 始めて分げつを見た日
 2 大体本葉3~4葉期の頃
Initial stage 3 観察
of tillering 4 月日
 5a 1
 5b 1

6. 分げつ最盛期 1 分げつ数の増加速度が最も大きい時期
 2 生育調査をしている個体の分げつ数がきまった後に算出する
Active tillering 3 測定・算出
stage 4 月日
 5a 1
 5b 1

B. 【生育期調査】

(9)

7. 最高分げつ期 1 茎数が最大となった日
2 生育調査をしている分げつ数がきまったく後に算出する
Maximum tiller 3 測定・算出
number stage 4 月日
5a 1
5b 1

8. 有効分げつ決定期 1 茎数がその年の穂数と同一になった日
2 穂数がきまったく後に算出する
End stage of 3 算出
effective 4 月日
tillering 5a 1
5b 1

9. 有効分げつ期間 1 分げつ始期から有効分げつ決定期までの期間
2 穂数がきまったく後に算出する
Effective 3 算出
tillering 4 月日
period 5a 1
5b 1

10. 分げつ終期 1 分げつの発生をみなくなった日

2

End stage of
tillering

3 測定

4 月日

5a 1

5b 1

11. 無効分けつ期間 1 有効分けつ決定期の翌日から終期までの期間

2

Non-effective
tillering
period

3 算出

4 月日

5a 1

5b 1

12. 生葉数 1 生きている葉の数

2 枯葉部の面積が葉身面積の $\frac{1}{2}$ 以下の葉身数。あるいは葉身の全長を5等分して目測する

Active leaf
number

未展開葉（葉身のロールしたもの）は含まない。葉色が黄化し同化作用能力を失った部分は枯葉部とみなす

調査個体数ならびに標本抽出は草丈調査に準ずる

3 観察

4 枚

5a 1

5b 0.1

13. 出葉期 1 最上位の葉鞘から次位葉身の先端がはじめて抽出した日
2 普通は主稈葉について行う

Time of individual
leaf emergence 葉位の記号は最下位の葉身を有する本葉を第1葉とする
 鞘葉（C）は別に記す
 従って本法で言う第1葉は植物学的には第2葉に相当する
 分げつの芽の葉位は下から前葉（P），第1葉，第2葉と記す

3 測定
4 月日
5a 1 5b 1

- | | | |
|-------------------|----|--------------------|
| 14. 出葉転換期 | 1 | 出葉間隔が明らかに長くなった最初の日 |
| | 2 | 明瞭に現れない場合もある |
| Stage of change | | 主稈葉について調査する |
| of leaf emergence | 3 | 測定・算出 |
| rate | 4 | 月日 |
| | 5a | 1 |
| | 5b | 1 |

B. 【生育期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地 (12)

16. 葉の寿命 1 その葉の出葉期から枯葉部が $\frac{1}{2}$ に達するまでの期間

2

Life span of
individual leaf 3 観察
4 日
5a 1
5b 1

17. 枯葉数 1 枯葉の数
2 葉身長あるいは葉面積の $\frac{1}{2}$ 以上が枯れたものを枯葉とする

Senescent leaves
number 3 できるかぎり葉位を記入する
観察
4 枚
5a 1
5b 0.1

18. 葉色 **	1 葉の色	1						
(I -3-1)	2 栄養生长期（分けつ期）と生殖生长期（穂孕期）あるいは叢性観察	2	極淡	—	—	—	—	—
	時に調査	3	淡	—	—	—	—	—
Leaf color	調査時期を明確にする	4	やゝ淡	ホロシリ	—	—	シロガネ	シラサギ
	観察	5	中	ハルヒカリ	ヒツミ	—	農林61号	オマセ'
		6	やゝ濃	—	—	—	ウシオ	—
		7	濃	—	ミヤギノ	—	—	—
		8	極濃	—	—	—	—	—
		9						

19. 葉齡 Plant age in leaf number	1 作物体の生育ステージを主稈の出葉数で表したもの 2 主稈（あるいは分げつ稈）の最上位の葉身が次位葉（n-1）の葉鞘から抽出した長さmを測り次に前者が全長に達した後の葉身の長さMを測り次式により計算する 葉齡= $(n - 1) + m/M$ 簡便法としては ① 未展開葉を0.5 展開葉を1.0 とみなして目測する ② 最上位の全長に達した葉身を10等分して次位葉身の伸長度を目測する 3 測定・観察 4 5a 0.1 5b 0.1
---------------------------------------	--

20. 葉齡指数 Leaf number index	1 作物体の生育ステージを示す一つの尺度 2 葉令を主稈総葉数で除し百分率で表したもの 3 測定・算出 4 5a 1 5b 1
----------------------------------	--

21. 葉身長 Leaf blade length	1 葉身の長さ 2 葉身の長さが最長となったときの先端から葉耳までの長さ 葉先が枯れない間に測定するように注意する 3 測定 4 cm 5a 0.1 5b 0.1
---------------------------------	---

22. 葉身巾 1 葉身の巾
 2 最大葉身巾で示す
Leaf blade width 3 測定
 4 cm
 5a 0.1
 5b 0.1

23. 葉鞘長 1 葉節からその葉の着生節までの長さ
 2
Leaf sheath length 3 測定
 4 cm
 5a 0.1
 5b 0.1

24. 葉面積 1 葉身の面積
 2 0.25m^2 以上 4か所の葉重 (TW) と葉面積の合計が 1000cm^2 以上となる葉重 (w) の比から求める
Leaf area $\text{TW} \times w$ の葉面積/ w
 ① 葉身の大きさを厚さ一定の紙片 (感光紙など) に写し重量法で計算する
 ② 葉面積測定器で測定する
 3 測定
 4 cm
 5a 0.1
 5b 0.1

B. 【生育期調查】

- | | |
|---|---|
| 25. 葉面積指数
Leaf area index
(L A I) | 1 単位面積に対する葉面積の比
2 単位面積当たりの株数 × 1株の葉面積／単位面積 |
| | 3 算出 |
| | 4 |
| | 5a 0.01 |
| | 5b 0.01 |

26. 生育良否

Growth vigor

 - 1 生育の良し悪し
 - 2 生育ステージを記録し、良、並、不良で表し、平年の生育程度を並とする必要であれば徒長ぎみ、あるいは分けつ数の多少などについても記録する
 - 3 観察
 - 4
 - 5a
 - 5b

28. 幼穂形成始期 1 初めて小穂始原体が分化した日
 2 稲村ら (1955) の基準のVI期に相当する時期
 Beginning of 下部節間が伸びはじめるものがある
 spike formation 3 測定
 4 月日
 5a 1
 5b 1

29. 幼穂形成期 1 40~50%の茎に小穂始原体が分化した日
 2 1例であるが高位分けつがVIに達したとき、主稈や低位分けつは、VII後~VIII
 Spike formation 3 測定
 stage 4 月日
 5a 1
 5b 1

30. 幼穂長 1 幼穂の長さ
 2 10個体について各個体より長い茎3本を抜き取って幼穂の長さを調査する
 Young spike 幼穂形成始期より出穂期まで測定する
 length 3 測定
 4 cm
 5a 0.1
 5b 0.1

31. 減数分裂期 1 花粉母細胞が減数分裂をする時期
Meiosis atage 2 幼穗長が3~5cm位の時、大体出穂前10~15日頃である
3 測定
4 月日
5a 1
5b 1

- | | | |
|-----------|----|-----------------------------|
| 32. 起生期 | 1 | 越冬後、ほぼ停止状態にあった茎葉が再び生長し始める時期 |
| | 2 | |
| Regrowing | 3 | 観察 |
| stage | 4 | 月日 |
| | 5a | 1 |
| | 5b | 1 |

- | | | |
|-------------------|----|---------------|
| 33. 茎立期 | 1 | 茎が伸び始める時期 |
| | 2 | ほぼ節間伸長の始期に当たる |
| Jointing
stage | 3 | 主稈長が2cmになった時期 |
| | 4 | 観察 |
| | 5a | 月日 |
| | 5b | 1 |

B. 【生育期調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(18)
34. 茎立性 *	1	茎が起立し始める時期の早晚	1						
	2		2	極早	—	—	—	—	サキガケ
(II-2)	3	観察	3	早	—	—	—	—	アサカゼ
	4		4	やゝ早	—	—	農林61号	—	シロガネ
Earliness of internode elongation	5a		5	中	—	ミクニ	—	—	農林61号
	5b		6	やゝ晚	—	—	ミクニ	—	—
			7	晩	—	農林27号	—	—	—
			8	極晩	—	—	—	—	—
			9						

34. 茎立性 *

1 茎が起立し始める時期の早晚

1

—

—

—

—

—

—

—

サキガケ

—

アサカゼ

—

シロガネ

—

農林61号

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

<div data-bbox="800 8728 82

B. 【生育期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地

(19)

37. 出穂始
- 1 始めて穂先が葉鞘から現れた日
 - 2 特に異品種でないことを確かめる
- Date of first heading
- 3 観察
 - 4 月日
 - 5a 1
 - 5b 1

38. 出穂期 **
- | | | | | | | | | |
|---------------|-------------------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | 1 全茎の40~50%が出穂した日 | 1 | | | | | | |
| | 2 | 2 極早 | — | — | — | — | — | — |
| (II-3-1) | 3 観察 | 3 早 | — | トヨホ | — | — | — | アサカゼ |
| | 4 月日 | 4 やゝ早 | — | ナンブ | ミクニ | シロガネ | オマセ | シロガネ |
| Heading stage | 5a 1 | 5 中 | ホロシリ | ハチマン | — | 農林61号 | シラサギ | 農林61号 |
| | 5b 1 | 6 やゝ晩 | — | — | — | ミクニ | — | ダンチ |
| | | 7 晩 | — | ヒツミ | 農林27号 | — | — | — |
| | | 8 極晩 | — | — | — | — | — | — |
| | | 9 | | | | | | |

39. 出穂まで日数
- 1 播種から出穂までの日数
 - 2 播種の翌日から出穂期までの日数
- Number of days to heading
- 3 算出
 - 4 日
 - 5a 1
 - 5b 1

B. 【生育期調査】

(20)

40. 出穂促進日数 1 その地方の標準栽培における過去の平均的な出穂期に対して促進された日数

2

Advanced number 3 観察・算出
of days in 4 日
heading 5a 1
5b 1

41. 出穂遅延日数 1 その地方の標準栽培における過去の平均的な出穂期に対して遅延した日数

2

Delayed number of 3 観察・算出
days in heading 4 日
5a 1
5b 1

42. 穂揃期 1 全茎の80~90%が出穂した日

2

Full heading 3 観察
stage 4 月日
5a 1
5b 1

43. 穂揃日数 1 出穂に要した日数
 2 出穂始の翌日から穂揃期までの日数
 Number of 3 算出
 days from first 4 日
 to full heading 5a 1
 5b 1

44. 開花期 1 1穂について数花開花を認めた日
 集団では全穂数の40~50%が開花期に達した時期
 Flowering date 2
 3 観察
 4 月日
 5a 1
 5b 1

45. 乳熟期 1 粒は緑色を保ち、圧すると固さを感じはじめ乳状物をだす時期
 2 開花後（受粉後）15日頃
 Milky stage 3 観察
 4 月日
 5a 1
 5b 1

B. 【生育期調査】

番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(22)
----	------	----	-----	--------	--------	------	----	------

46. 黄熟期 1 果皮から葉緑素が消えて、粒は強く圧するとつぶせる程度になる時期
とくにこの時期の前半を糊熟期という

Yellow-ripe stage 2 この時期を1のように2期に分ければ開花後23日頃糊熟期、開花後37日頃（成熟期前1週間頃）黄熟期
3 観察
4 月日
5a 1
5b 1

47. 成熟期 ** 1 基葉並びに穂首部分が黄化し、穂軸や粒は緑色がぬけ、粒にはツメ跡が僅かにつき、ほぼ蠟ぐらいの固さに達した粒をつける茎が、全穂数の80%以上に達した日 1
(II-3-2) 2 極早 — — — — — —
Maturity stage 3 早 — トヨホ — — — アサカゼ
4 やゝ早 — ナンブ ミクニ シロガネ オマセ シロガネ
5 中 ホロシリ ハチマン 農林61号 シラサギ 農林61号
2 開花後40日頃 6 やゝ晩 — — ミクニ — ダンチ
3 観察 7 晩 — ヒツミ 農林27号 — —
4 月日 8 極晩 — — — — —
5a 1 5b 1 9

48. 結実日数 1 出穂期の翌日から成熟期までの日数

Number of days to maturity 2
3 算出
4 日
5a 1
5b 1

49. 生育日数 1 播種の翌日から成熟期までの日数

2

Growth period 3 算出

4 日

5a 1

5b 1

50. 被害発生状況 1 被害の発生状況

2 被害名とその発生時期・損傷程度の調査を行う

Damage situation 甚(100%~) 多(90%~) 中(70%~) 少(50%~) 微(30%~) 無に区分する

3 測定・観察

4

5a

5b

51. 倒伏の程度 1 倒伏の角度、倒伏面積の割合

2 調査月日及び倒伏した月日を記載する

Degree of lodging 倒伏程度×倒伏面積比率

3 観察

4

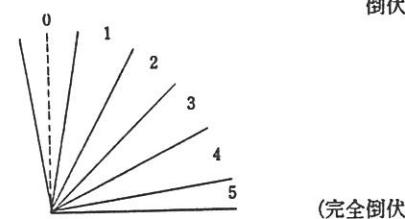
5a

5b

倒伏の程度
(無倒伏)

必要に応じて区分
例えば、0.2, 0.4, 0.6, 0.8

倒伏面積比率 5%単位で



52. 虫害	1 虫による被害 2 虫害の種類別に記載する Insect damage 虫害名とその発生時期、程度の調査を行う なお、発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期葉令あるいは茎立期、穂孕期、出穂期など 甚(100%~) 多(90%~) 中(70%~) 少(50%~) 微(30%~) 無に区分する 3 観察 4 5a 5b
53. 病害	1 病原菌による被害 2 病害の種類別に記載する Disease damage 病害名とその発生時期、程度の調査を行う なお、発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期葉令あるいは茎立期、穂孕期、出穂期など 甚(100%~) 多(90%~) 中(70%~) 少(50%~) 微(30%~) 無に区分する 3 観察 4 5a 5b
54. 寒害	1 寒さによる被害 2 その発生時期、程度の調査を行う Cold damage なお、発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期葉令あるいは茎立期、穂孕期、出穂期など 甚(100%~) 多(90%~) 中(70%~) 少(50%~) 微(30%~) 無に区分する 3 観察 4 5a 5b

55. 旱害

1 早ばつによる被害

2 発生時期、程度の調査を行う

Drought damage

なお、発生時期に暦日と麥の生育時期の両者を記入する

生育時期葉令あるいは茎立期、穗孕期、出穂期など

甚(100%~) 多(90%~) 中(70%~) 少(50%~) 微(30%~) 無に区分する

3 観察

4

5a

5b

56. 湿害

1 湿潤による被害

2 発生時期、発生原因および被害様相を明記する

Wet damage

なお、発生時期に暦日と麥の生育時期の両者を記入する

生育時期葉令あるいは茎立期、穗孕期、出穂期など

甚(100%~) 多(90%~) 中(70%~) 少(50%~) 微(30%~) 無に区分する

3 観察

4

5a

5b

57. 雪害

1 雪による被害

2 発生時期、発生原因および被害様相を明記する

Snow damage

微生物によるものとそうでないものと、または2者合せたものとに区別できるようにしておく

甚・多・中・微・無に区分する

3

4

5a

5b

58. 凍霜害	1 凍結や霜による被害 2 発生時期、程度の調査を行う Frost damage なお、発生時期に暦日と麥の生育時期の両者を記入する 生育時期葉令あるいは茎立期、穗孕期、出穂期など 甚(100%~)多(90%~)中(70%~)少(50%~)微(30%~)無に区分する 3 観察 4 5a 5b
59. 晩霜害	1 節間伸長期より後の霜害 2 甚(100%~)多(90%~)中(70%~)少(50%~)微(30%~)無に区分する Late spring frost damage 3 観察 4 5a 5b
60. 風害	1 風による害 2 発生時期に暦日と麥の生育時期の両者を記入する Wind damage 生育時期葉令あるいは茎立期、穗孕期、出穂期など 甚・多・中・少・微・無に区分する 3 観察 4 5a 5b

B. 【生育期調查】

61. 酸性の害 1 土壌のpHが低いことによる生育阻害
2 甚・多・中・少・微・無に区分する
Acid damage 3 観察
4
5a
5b

C. 【收 穫 期 調 查】

C. 【収穫期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地 (28)

1. 稿の剛柔 (I-2-3) Culm stiffness	1 成熟期の稿の固さ	1						
	2	2 極剛	—	—	—	—	—	—
	3 観察	3 剛	ホロシリ	フルツマサリ	—	ヒヨク	—	—
	4	4 やゝ剛	—	ハチマン	農林27号	—	オマセ	ヒヨク
	5a	5 中	ハルヒカリ	—	ミクニ	農林61号	農林26号	農林61号
	5b	6 やゝ柔	—	ナンブ	—	—	—	—
	7	7 柔	—	—	—	—	—	—
	8	8 極柔	—	—	—	—	—	—
	9							
2. 稿の細太 ** (I-2-2) Culm diameter	1 成熟期の稿の太さ	1						
	2 稿の最も太い個所の太さ	2 極細	—	—	—	—	—	—
	3 観察	3 細	—	ミヤギノ	—	—	—	—
	4	4 やゝ細	—	—	—	—	—	ゴガツ
	5a	5 中	ハルヒカリ	キタカミ	ミクニ	農林61号	オマセ	農林61号
	5b	6 やゝ太	—	—	—	—	シラサギ	アサカゼ
	7	7 太	ホロシリ	フルツマサリ	農林69号	ヒヨク	—	ヒヨク
	8	8 極太	—	—	—	—	—	—
	9							
3. 株の開閉 ** (I-1-2) Culm angle	1 穗揃期～成熟期に茎が扇型に開く程度	1						
	2 茎が外方に扇開したのを開とし直立したのを閉とする	2 極閉	—	—	—	—	—	—
	3 観察	3 閉	ホロシリ	アオバ	農林27号	—	オマセ	—
	4	4 やゝ閉	—	—	—	オマセ	—	オマセ
	5a	5 中	—	ナンブ	—	農林61号	農林26号	農林26号
	5b	6 やゝ開	—	—	—	—	シラサギ	—
	7	7 開	—	ヒツミ	ミクニ	ヒヨク	—	アサカゼ
	8	8 極開	—	—	—	—	—	ヒヨク
	9							

C. 【収穫期調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(29)
--	----	------	----	-----	--------	--------	------	----	------

4. 穂発芽性 ** (II-5) Tolerance to pre - harvest sprouting	1	立毛中の穂発芽の難易	1	—	—	—	—	—	—
	2	成熟期の穂について調査	2	極難	—	—	—	—	—
		穂の生育時期と調査時の粒水分を記載する。甚，多，中，少，微，無	3	難	—	—	ミクニ	農林61号	オマセ
			4	やゝ難	ハルヒカリ	ナンブ	—	—	チクシ
			5	中	ホロシリ	—	農林27号	フジミ	シラサギ
	3	測定	6	やゝ易	—	アオバ	—	農林27号	—
	4		7	易	—	—	—	—	埼玉27号
	5a		8	極易	—	—	—	—	—
	5b		9						
5. 穂長 ** (I-4-2) Spike length	1	穂首から穂の頂端までの長さ	1	—	—	—	—	—	—
	2	稈長を測定する茎に着生する穂について測定する	2	極短	—	—	—	—	—
			3	短	—	ミクニ	—	オマセ	—
			4	やゝ短	—	—	ミクニ	—	セト
	3	測定	5	中	ホロシリ	ミヤギノ	—	農林61号	シロガネ
	4	cm	6	やゝ長	ハルヒカリ	—	農林27号	—	オマセ
	5a	0.1	7	長	—	オク	—	シラサギ	アサカゼ
	5b	0.1	8	極長	—	—	—	—	農林61号
			9						ヒヨク
									ヒヨク
6. 穂数 Spike number	1	穂の数 (遅れ穂，被害穂を含む全穂数)							
	2	信頼度±5%以内になるように反復する							
		およそ条播50cm・4か所，4か所の合計が1m以下である場合は1m以上になるまで個所数を増やす							
		全層播50cm角・5か所以上							
	3	測定							
	4	本							
	5a	1							
	5b	1							

C. 【収穫期調査】

7. m^2 当り穂数 1 m^2 当りの穂数

2

Spike number 3 算出
per m^2 4 本
5a 1
5b 1

8. 有効穂数 1 遅れ穂、被害穂を除いた穂数

2

Effective 3 測定
spike number 4 本
5a 1
5b 1

9. m^2 当り有効穂数 1 m^2 当りの有効穂数

2

Effective 3 算出
spike number 4 本
per m^2 5a 1
5b 1

C. 【収穫期調査】

(31)

10. 有効穂数歩合 1 有効穂数の割合
 2 有効穂数／全穂数×100

Effective spike 3 算出
percentage 4 %
 5a 1
 5b 0.1

11. 遅れ穂数 1 遅れて出た穂の数
 2 穂揃期以後に出穂して被害以外の原因で粒の大部分（80%以上）が不稔となった穂あるいは稈長が最長稈の50%以下の穂数

Late - appeared 3 測定
spike number 4 本
 5a 1
 5b 1

12. m^2 当り遅れ穂数 1 m^2 当りの遅れ穂数
 2
Late - appeared 3 算出
spike number 4 本
per m^2 5a 1
 5b 1

C. 【収穫期調査】

番号 階級区分 寒地

寒冷地

温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地

(32)

13. 被害穂数 1 被害によって粒の大部分（80%以上）が不稔となった穂数

2

Damaged spike 3 測定
 number 4 本
 5a 1
 5b 1

14. m²当り被害穂数 1 m²当りの被害穂数

2

Damaged spike 3 算出
 number per m² 4 本
 5a 1
 5b 1

15. 穂の抽出度 ** 1 成熟期の止葉の葉鞘先端から穂首

1

節までの長さ

2

極短

—

—

—

—

—

—

—

(I -4-4)

2

短

—

—

—

—

—

—

—

3 算出

3

やゝ短

—

ヒツミ

ミクニ

—

—

—

チクシ

Spike exsertion 4 cm

4

中

ホロシリ

ハチマン

—

農林61号

農林61号

5a 1

5

やゝ長

—

アオバ

農林27号

—

—

—

ヒヨク

5b 1

6

長

ハルヒカリ

オク

—

—

—

シラサギ

—

7

極長

—

—

—

—

—

—

—

8

—

—

—

—

—

—

—

—

9

C. 【収穫期調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(33)
--	----	------	----	-----	--------	--------	------	----	------

16. 稈長 ** (I -2-1) Culm length	1	稈の長さ	1						
	2	立毛の場合は地際から穗首節まで, 抜取りの場合は根際から穗首節まで の長さを測定	2 極短	—	—	—	—	—	—
		条播の場合には生育中庸な 4 か所各 50cm間につき、その10cm間づつの合 計20茎の平均、点播の場合には20株 の平均	3 短	—	農林10号	—	シロカネ	—	アサカゼ
			4 やゝ短	—	—	—	—	—	サキガケ
			5 中	ホロシリ	ハチマン	ミクニ	オマセ	オマセ	セト
			6 やゝ長	—	—	農林69号	—	シラサギ	農林61号
			7 長	ハルヒカリ	フルツマサリ	—	農林61号	—	ダンチ
			8 極長	—	—	農林27号	—	—	—
	3	測定 4 cm 5a 1 5b 1	9						
17. 平均稈長 Mean culm length	1	1 株内の主稈および各分けつの稈長の平均							
	2								
	3	測定							
	4	cm							
	5a	1							
	5b	1							
18. 節間長 Internode length	1	節間の長さ							
	2	伸長節間とは節間長0.5 cm以上をいう							
		穂首と上位第1節の間を第1節間として以下下位におよぶ							
	3	測定							
	4	cm							
	5a	0.1							
	5b	0.1							

19. 地中茎長 1 地中茎の長さ

2

Subcrownal 3 測定

internode 4 cm

length 5a 0.1

5b 0.1

20. 総根長 1 1次根の根長の総和

2

Total root 3 測定

length 4 cm

5a 0.1

5b 0.1

21. 根長 1 最長根長

2

Root length 3 測定

4 cm

5a 0.1

5b 0.1

22. 根数 1 1次根の数

2

Root number 3 測定
4 本
5a 1
5b 0.1

D. 【収量関係調査】

D. 【収量関係調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地 (36)

1. 収量性 (II-9) Yielding ability	1 収量の多少	1						
	2	2 極少	—	—	—	—	—	—
	3 测定	3 少	—	—	—	—	—	—
	4	4 やゝ少	—	ミヤギノ	農林27号	—	シラサギ	ゴガツ
	5a	5 中	ホロシリ	—	ミクニ	農林61号	—	農林61号
	5b	6 やゝ多	—	ハチマン	—	オマセ	農林26号	アサカゼ
		7 多	—	—	—	—	オマセ	チクシ
		8 極多	—	—	—	—	—	—
	9							
2. 1穂重 One spike weight	1 1穂の重さ							
	2 穂首節から切り取った穂の重量、充分日乾したものについて測定する							
		条播の場合は50cm間4か所、点播の場合は20株4か所の株ごと、密条播では4か所の合計が1.2 m ² 以上について測定を行う						
	3 测定							
	4 g							
	5a 0.1							
	5b 0.1							
3. 1穂粒重 Grain weight per spike	1 1穂の粒の重さ							
	2 1穂重を測定した株について調査する							
	3 测定・算出							
	4 g							
	5a 0.01							
	5b 0.01							

4. 穂重歩合	1 全重に対する穂重の割合 2 1株穂重を1株全重にて除す
Spike weight ratio	1株全重を測定する株について調査する 1株穂重／1株全重×100
	3 算出
	4 %
	5a 1
	5b 1

5. 1株穂重	1 1株の全穂の重さ（遅れ穂を除く） 2 1株全重を測定する株につき調査する
Spike weight per plant	標本数は、D - 2 1穂重 の測定に準ずる
	3 測定
	4 g
	5a 0.1
	5b 0.1

6. 平均1穂重	1 1穂の平均の重さ 2 穂重の合計／穂重を測定した穂数の合計
Mean spike weight	3 算出
	4 g
	5a 0.1
	5b 0.1

D. 【収量関係調査】

7. 1 株粒重	1 株別に脱粒調製したものの粒重
	2 1株全重を測定する株について調査する
Grain weight per plant	3 測定
	4 g
	5a 0.1
	5b 0.1

8. 地上部生体重	1 根を切り取った茎葉のなまの重量
	2 水を切っておれない間にすみやかに行う。調査個体数は作物体の大きさ、試験の目的によって決定し、調査成績に付記する
Fresh top weight	3 測定
	4 g
	5a 0.1
	5b 0.1

9. 乾物重	1 材料の無水換算の重さ
Dry weight content	2 材料をそのまま又は手早く秤量瓶に入れ、容器ともに重量を測り、容器の重さを差し引いて生体量とする。次に100 ~102 °Cの乾燥器中に入れ重量の変化がなくなるまで乾燥と測定を繰り返す
	重量測定はデシケーター中で室温になるまで一定時間冷却した後、容器ともに重量を測り、容器の重量を差し引いて乾物重を出す
	含水率 = (生体重 - 乾物重) / 生体重 × 100
	調査個体数は地上部生体重に準ずる
	3 測定
	4 mg, %
	5a 1 5b 1

D. 【収量関係調査】

(39)

10. 地上部風乾重	1 地上部の風乾物重
Air-dried top weight	2 通風乾燥器を用い40℃24時間乾燥後、室温にさがったとき、または戸外で充分日乾陰干したものについて調査する 調査個体数は地上部生体重に準ずる
	3 測定
	4 g
	5a 0.1
	5b 0.1

11. 乾物重歩合	1 生体重に対する乾物重の割合
Dry weight ratio	2 乾物重／生体重×100
	3 算出
	4 %
	5a 0.1
	5b 0.1

12. 風乾重歩合	1 生体重に対する風乾重の割合
Air-dried weight ratio	2 風乾重／生体重×100
	3 算出
	4 %
	5a 0.1
	5b 0.1

13. 種基重	1 種基部の重量 2 伸長節間 0.5cm以上の節間の下位節より上位10cmの長さの種重、葉身、葉鞘は含まない
Culm base weight	充分日乾した材料について測る 調査個体数は、試験目的によって決定し調査成績に附記する
	3 測定
	4 g
	5a 1
	5b 0.1

14. 種重	1 風乾収穫物の脱穀後の種の重量 2 調査個体数、調査面積等は試験の目的によって決定し調査成績に附記する
Culm weight	3 測定
	4 g
	5a 1
	5b 1

15. m ² 当り種重	1 m ² 当りの種の重さ 2 調査面積は1 m ² 以上とする
Culm weight per m ²	3 算出
	4 g
	5a 1
	5b 1

16. 根重 Root weight	1 根の重さ 2 調査個体数は、試験目的によって決定し調査成績に附記する 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
17. 有効茎歩合 Effectiv tiller percentage	1 最高茎数に対する穗数の割合 2 穗数を茎数にて除す 有効茎歩合を調査すべき箇所は分けつ終止期に生育中庸な50cm間4か所以上の茎数を測定しておき、成熟期にその箇所の穗数を測定する 有効穗数／最高茎数×100 3 測定・算出 4 % 5a 1 5b 1
18. 1穂小穂数 Spikelet number per spike	1 1穂に着生する小穂の数 2 1穂の 小穂を完全発育小穂数*, 未発育小穂数とに分けて調査する。さらに、完全発育小穂数を被害小穂数*, 下部不稔小穂数*, 上部不稔小穂数*と稔実小穂数とに分けておく。なお、完全発育小穂とは肉眼的に外穎と内穎が完備したものをいう。したがって、未発育小穂とは、外穎と内穎が完備していないもの、いわゆる小穂として痕跡が残っている程度のものということになる 1 穂小穂数 = 未発育小穂数 + 完全発育小穂数 = 穂首節から数えた穗軸節数 完全発育小穂数 = 稔実小穂数 + 被害小穂数 + 不稔小穂数 不稔小穂数 = 下部不稔小穂数 + 上部不稔小穂数 調査個体数は、試験目的によって決定し調査成績に附記する 3 測定 4 個 5a 0.1 5b 0.1

D. 【収量関係調査】

(42)

19. m^2 当り小穂数 1 m^2 当りの小穂の数

2

Spikelet number
per m^2 3 算出
4 個
5a 1
5b 1

20. 平均 1 穂当り 1 m^2 当り小穂数を m^2 当り有効穂数で除したもの

小穂数 2 m^2 当り小穂数 ÷ m^2 当り有効穂数
3 算出
Mean spikelet 4 個
number per 5a 1
spike 5b 0.1

21. 被害小穂数 1 被害のため 1 粒も稔実していない小穂数

2

Damaged 3 測定
spikelet 4 個
number 5a 1
5b 0.1

22. m^2 当り被害小穂数 1 m^2 当りの被害小穂数

2

Damaged spikelet 3 算出
number per m^2 4 個
5a 1
5b 1

23. 稔実小穂数 1 稔実している小穂の数

2 稔実小穂数を穗毎、株毎に測定し、測定した全穂数にて除して算出する

Mean fertile 3 測定・算出
spikelet number 4 個
per spike 5a 1
5b 0.1

24. 稔実小穂数歩合 1 全小穂数に対する稔実小穂数の割合

2 m^2 当り稔実小穂数 ÷ m^2 当り全小穂数

Fertile 3 算出
spikelet percentage 4 %
5a 0.1
5b

$$\frac{m^2\text{当り稔実小穂数}}{(m^2\text{当り稔実小穂数} + m^2\text{当り被害小穂数} + m^2\text{当り不稔実小穂数})} \times 100$$

D. 【収量関係調査】

25. 不稔実小穂数 1 被害以外の原因により 1 粒も稔実していない小穂数
 2 10株について測定し、1 穂当たりまたは m^2 当りに換算する
 Sterile 3 測定・算出
 spikelet 4 個
 number 5a 1
 5b 0.1

26. 小花数 1 有効穂についての小花の数
 2 小花とは肉眼的に内穎、外穎の完備したものという
 Floret number 3 測定
 4 粒
 5a 1
 5b 0.1

27. m^2 当り小花数 1 m^2 当りの小花数
 2 調査個体数は、試験目的によって決定し調査成績に附記する
 Floret number 3 算出
 per m^2 4 個
 5a 1
 5b 0.1

28. 1 穗粒数 1 穗の粒数
 2 調査個体数は、試験目的によって決定し調査成績に附記する
 あるいは、子実重÷穂数÷千粒重によって算出してもよい
 Grain number
 per spike 3 測定・算出
 4 粒
 5a 1
 5b 0.1

- | | | |
|------------------------------|----|----------------|
| 29. 1 小穂当り粒数 | 1 | 1 小穂の粒数 |
| | 2 | 1 穗粒数 ÷ 1 穗小穂数 |
| Grain number
per spikelet | 3 | 算出 |
| | 4 | 粒 |
| | 5a | 0.1 |
| | 5b | 0.1 |

30. 稔実粒数

Grain number

 - 1 稔実粒の数
 - 2 稔実粒とは成熟期に上麥及び屑麥となるものをいう
穂毎に測定し、1穂当たりまたはm²当たりに換算する
 - 3 測定・算出
 - 4 粒
 - 5a 1
 - 5b 0.1

31. 整粒歩合 1 整粒 (2.0mm 以上の粒を整粒あるいは上麦という) の割合
 2 200gを供試し、縦目振とう篩を用いて5分間ふるい分けし、2.0mm以上のあるいは上に残ったものの重量の供試重量に対する割合
Plump-grain percentage 3 測定・算出
 4 %
 5a 1
 5b 0.1

32. 全重 1 充分日乾した地上部の全重量（全風乾重）
 2 剖取試験区の全量、剖取面積を附記する
Total weight 3 測定
 4 g
 5a 1
 5b 1

33. a 当り全重 1 a 当りの全重
 2 剖取試験区全量
Total weight per are 3 測定
 4 kg
 5a 0.1
 5b 0.1

D. 【収量関係調査】

(47)

34. 子実重 1 充分日乾した子実で唐箕によって屑粒を除いた重量
 2 割取面積は、試験目的によって決定し調査成績に附記する
 Grain weight 3 測定
 4 g
 5a 1
 5b 1

- | | | |
|--------------|----|------------------|
| 35. 厚麦重 | 1 | 唐箕選の2番口以下に出た粒の重量 |
| | 2 | 唐箕の回転数に注意する |
| Shriveled | 3 | 測定 |
| grain weight | 4 | g |
| | 5a | 0.1 |
| | 5b | 0.1 |

- | | |
|-------------|----------------|
| 36. a 当り子実重 | 1 a 当りの子実重 |
| | 2 含水率は12.5%とする |
| Grain yield | 3 算出 |
| per are | 4 kg |
| | 5a 0.1 |
| | 5b 0.1 |

D. 【収量関係調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地

(48)

37. a 当り肩麦重	1 a 当りの肩麦重
	2 含水率は12.5%とする
Shriveled	3 算出
grain yield	4 kg
per are	5a 0.1
	5b 0.1

38. 1 ℥重 **	1 子実の 1 ℥重量	1						
(I-8-2)	2 1 ℥重測定器で 3 回測定した平均 含水率は12.5%とする	2 極小	—	—	—	—	—	—
		3 小	—	アオバ	—	—	—	ヒヨク
	3 测定	4 やゝ小	—	—	—	—	—	アサカゼ
Test weight	4 g	5 中	ホロシリ	—	ミクニ	農林61号	シラサギ	農林61号
	5a 1	6 やゝ大	—	—	農林27号	—	—	シロガネ
	5b 1	7 大	ハルヒカリ	キタカミ	—	—	—	ゴガツ
		8 極大	—	—	—	—	—	—
		9						

39. 千粒重 **	1 子実の1000粒の重量	1						
(I-8-1)	2 20 g の試料について 5 回以上測定 する。含水率は12.5%とする	2 極小	—	—	—	—	—	—
		3 小	—	アオバ	—	—	—	ダンチ
	3 测定	4 やゝ小	—	—	ミクニ	ウシオ	—	ゴガツ
1000-grain weight	4 g	5 中	—	—	農林27号	—	オマセ	農林61号
	5a 0.1	6 やゝ大	—	—	—	農林61号	シラサギ	アサカゼ
	5b 0.1	7 大	ホロシリ	フルツマサリ農林69号	ヒヨク	—	—	ヒヨク
		8 極大	—	—	—	—	—	—
		9						

D. 【収量関係調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地 (49)

40. 整粒千粒重 1000- plump grain weight	1 整粒の1000粒の重量 2 20 g の試料について 5 回以上測定する。含水率は12.5%とする 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
--	---

41. 削麦千粒重 1000- shriveled grain weight	1 削麦の1000粒の重量 2 削麦重 ÷ 削麦粒数 × 1000 3 測定・算出 4 g 5a 0.1 5b 0.1
--	--

42. 千粒重増加 状況 Increase of 1000- grain weight	1 千粒重の増加状況 2 穂重増加状況調査を行った乾燥穂を脱穀した全粒の1000粒の重量を測定する。20g 宛 5 回測定する 但し、初期は15 g でよい 1000粒重を20 g ずつ 5 回測定した各々の試料について、粒の生育過程が判明するように粒の充実程度（例えば完全粒、不完全粒、着色粒等）を区分して各々の重量歩合を算出しておく。（出穂期後10日より成熟期まで 5 日毎に測定するのを原則とする） 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
---	--

E. 【品 質 関 係 調 査】

E. 【品質關係調查】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (50)

1. 粒の黒目の 有無・多少 (II-4-1) Presence · amount of black point grain	1	胚あるいは胚乳の黒い斑点の有無 と多少	0	無	—	ナシブ	ミクニ	—	—	—
	2		1	極少	ホロシリ	—	—	農林61号	—	農林61号
	3	測定・観察	3	少	—	—	フジミ	フジミ	—	—
	4	%	4	やゝ少	—	—	—	—	—	—
	5a	1	5	中	—	—	—	—	—	—
	5b	1	6	やゝ多	—	ハナガサ	—	—	—	—
			7	多	—	—	—	—	—	—
			8	極多	—	—	—	—	—	—
			9							
2. 粒の品質 Grain quality	1	粒の外観上の品質								
	2	粒の充実度及び色沢により鑑定する 食糧庁検査等級の何等に当たるかを附記する								
	3	観察								
	4									
	5a									
	5b									
3. 原麦粒の見かけの 品質 ** (I-9-1) Grain quality	1	粒の外観上の品質	1	上の上	—	—	—	—	—	—
	2	新品種候補の特性として評価	2	上の中	—	ミヤギノ	—	—	シラサギ	
	3	観察	3	上の下	ハルヒカリ	キタカミ	ゼンコウジ	—	オマセ	—
	4		4	中の上	ホロシリ	—	農林27号	農林61号	—	農林61号
	5a		5	中の中	—	—	ミクニ	—	—	—
	5b		6	中の下	—	ハナガサ	—	—	—	—
			7	下の上	—	—	—	—	—	—
			8	下の中	—	—	—	—	—	—
			9	下の下	—	—	—	—	—	—

E. 【品質關係調查】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (51)

E. 【品質関係調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(52)
7. 60%粉粗蛋白質含量	1	60%粉の粗蛋白質の含量	1						
**	2	全窒素含有率×5.70	2	極少	—	—	—	—	—
	3	測定	3	少	—	ヒツミ	—	—	—
(II-10-5)	4	%	4	やゝ少	—	キタカミ	—	シロガネ	—
	5a	0.1	5	中	ホロシリ	—	ミクニ	農林61号	農林61号
Crude protein	5b	0.1	6	やゝ多	—	ミヤギノ	ゼンコウジ	ミクニ	ゴガツ
content of			7	多	ハルヒカリ	—	—	—	—
60% flour			8	極多	—	—	—	—	—
			9						
8. 60%粉灰分含量	1	60%粉の灰分の含量	1						
	2		2						
Ash content	3	測定	3						
of 60 % flour	4	%	4						
	5a	0.1	5a						
	5b	0.1	5b						
9. 粉の白さ	1	60%粉の白さ	1						
	2	分光光度計の波長455m μ における 反射率 (R 455) で表示	2	極低	—	—	—	—	—
(II-10-6)	3	測定	3	低	—	—	—	—	—
	4	%	4	やゝ低	—	ナンブ	ミクニ	—	ヒヨク
Whiteness	5a	0.1	5	中	ハルヒカリ	—	—	農林61号	オマセ
of flour	5b	0.1	6	やゝ高	ホロシリ	キタカミ	ゼンコウジ	—	シラサギ
			7	高	—	—	—	—	アサカゼ
			8	極高	—	—	—	—	—
			9						

E. 【品質関係調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(53)
--	----	------	----	-----	--------	--------	------	----	------

10. 粉の明るさ (II-10-7)	1	60%粉の明るさ	1						
	2	分光光度計の波長554m μ における反射率 (R 554) で表示	2 極低	—	—	—	—	—	—
	3	測定	3 低	—	—	—	—	—	—
	4	%	4 やゝ低	—	ナンブ	ミクニ	—	—	ヒヨク
	Brightness		5 中	ホロシリ	—	—	農林61号	オマセ	農林61号
	of flour		6 やゝ高	—	キタカミ	ゼンコウジ	—	シラサギ	アサカゼ
	5a 0.1		7 高	—	—	—	—	—	—
	5b 0.1		8 極高	—	—	—	—	—	—
			9						
11. 粉の色づき (II-10-8)	1	60%粉の色づき	1						
	2	D 455-D 554 ($\log R 554 - \log R 455$ により算出) で表示	2 極低	—	—	—	—	—	—
	3	算出	3 低	—	—	—	—	—	—
	Yellowness		4 やゝ低	—	キタカミ	ゼンコウジ	—	—	—
	of flour		5 中	ハルヒカリ	—	—	農林61号	シラサギ	農林61号
	5a 0.001		6 やゝ高	—	—	ミクニ	—	—	ヒヨク
	5b 0.001		7 高	ホロシリ	ナンブ	—	—	—	—
			8 極高	—	—	—	—	—	—
			9						
12. 吸水率 (II-10-9)	1	生地を形成する (生地の固さを500 B.U. にする) に要する水の粉に対する割合	1						
	2	ファリノグラフによる	2 極低	—	—	—	—	—	—
	Water	3 測定	3 低	—	—	—	—	—	—
	absorption	4 %	4 やゝ低	ハルヒカリ	キタカミ	—	—	—	—
	rate	5a 0.1	5 中	—	—	—	農林61号	シラサギ	農林61号
	5b 0.1		6 やゝ高	ホロシリ	ハナガサ	ミクニ	—	—	ゴガツ
			7 高	—	—	—	—	—	—
			8 極高	—	—	—	—	—	—
			9						

E. 【品質関係調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(54)
13. バロリメーター バリュウ (II-10-10) Valorimeter value	1	生地形成状態の総合評価値	1						
	2	ファリノグラフの形態を測定板で 測定	2 極低	—	—	—	—	—	—
	3		3 低	—	—	—	—	—	—
	4		4 やゝ低	—	フルツマサリー	—	シラサギ	アサカゼ	
	5a	1	5 中	ホロシリ	ミクニ	農林61号	オマセ	農林61号	
	5b	1	6 やゝ高	—	ミヤギノ	—	—	—	—
			7 高	ハルヒカリ	—	—	—	—	—
			8 極高	—	—	—	—	—	—
			9						
14. 生地の力の程度 (エキステンソ の面積) (II-10-11) Area of extensogram	1	生地のもつエネルギーの大きさ	1						
	2	エキステンソグラム (135 分) に よる图形の面積	2 極小	—	—	—	—	—	—
	3		3 小	—	—	—	—	—	—
	4		4 やゝ小	ホロシリ	ハナガサ	農林61号	—	シラサギ	アサカゼ
	5	cm ²	5 中	—	ミクニ	農林61号	オマセ	農林61号	
	5a	1	6 やゝ大	—	ミヤギノ	ゼンコウジ	—	—	—
	5b	1	7 大	ハルヒカリ	—	—	—	—	—
			8 極大	—	—	—	—	—	—
			9						
15. 伸長抵抗 (II-10-12) Resistance of extensogram	1	生地を伸長したときの抵抗 (こし) の強さ	1						
	2	エキステンソグラム (135 分) に よる图形の高さ	2 極弱	—	—	—	—	—	—
	3		3 弱	—	—	—	—	—	—
	4		4 やゝ弱	—	ハナガサ	—	—	シラサギ	アサカゼ
	5	測定	5 中	ホロシリ	ミクニ	農林61号	オマセ	農林61号	
	6	B.U.	6 やゝ強	—	キタカミ	ゼンコウジ	—	—	—
	5a	5	7 強	ハルヒカリ	—	—	—	—	—
	5b	5	8 極強	—	—	—	—	—	—
			9						

E. 【品質関係調査】

		番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(55)
16. 伸長度 (II-10-13) Extensibility of extensogram	1 生地を伸長したときの伸び (あし) の程度	1								
	2 エキステンソグラム (135 分) による図形の底辺の長さ	2 極短	—	—	—	—	—	—	—	
	3 測定	3 短	—	—	—	—	—	—	—	
	4 mm	4 やゝ短	ハルヒカリ	ハナガサ	ミクニ	—	—	—	アサカゼ	
	5a 1	5 中	ホロシリ	—	—	農林61号	シラサギ	農林61号		
	5b 1	6 やゝ長	—	ミヤギノ	ゼンコウジ	—	—	—		
		7 長	—	—	—	—	—	—		
		8 極長	—	—	—	—	—	—		
		9								
17. 形状係数 (II-10-14) Proportional number	1 生地の粘弾性のこし／あし比	1								
	2 伸長抵抗／伸長度	2 極小	—	—	—	—	—	—	—	
	3 算出	3 小	—	—	—	—	—	—	—	
	4	4 やゝ小	—	ブルツマサリ	—	—	シラサギ	アサカゼ		
	5a 0.1	5 中	ホロシリ	—	ミクニ	農林61号	オマセ	農林61号		
	5b 0.1	6 やゝ大	ハルヒカリ	キタカミ	ゼンコウジ	—	—	—		
		7 大	—	—	—	—	—	—		
		8 極大	—	—	—	—	—	—		
		9								
18. 最高粘度 (II-10-15) Maximum viscosity	1 小麦粉中のアミラーゼ活性程度	1								
	2 アミログラムによる	2 極小	—	—	—	—	—	—	—	
	3 測定	3 小	—	—	—	—	—	—	—	
	4 B.U.	4 やゝ小	ハルヒカリ	アオバ	ミクニ	—	—	—	アサカゼ	
	5a 5	5 中	ホロシリ	—	—	農林61号	—	農林61号		
	5b 5	6 やゝ大	—	フルツマサリ	ゼンコウジ	—	—	—		
		7 大	—	—	—	—	—	—		
		8 極大	—	—	—	—	シラサギ	—		
		9								

- | | |
|----------|----------------------|
| 19. 麺質含量 | 1 グルテンの含量 |
| | 2 供試粉重量に対する湿麺又は乾麺の割合 |
| Gluten | 3 測定 |
| content | 4 % |
| | 5a 0.1 |
| | 5b 0.1 |

F. 【特 性 調 査】

F. 【特性調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(57)
--	----	------	----	-----	--------	--------	------	----	------

1. 播性の程度 **	1	播性の程度	低						
	2	早春から一定間隔で播種し出穂状況により判定する	1	I ↑	—	—	—	—	ゴガツ
	(II-1-1)	検定品種は、付1の通り	2	II	—	トヨホ	フジミ	農林61号	オマセ
	Degree of spring habit	通常10日間隔で播種	3	III	—	—	—	シラサギ	エビス
	3	測定・観察	4	IV	—	アオバ	ミクニ	ミクニ	—
	(Degree of winter habit)	4	5	V	—	ナンブ	—	—	—
	5a		6	VI	—	—	農林27号	—	—
	5b		7	VII ↓	—	オク	—	—	—
					高				
2. 春播・秋播の別 **	1	春播小麦か秋播小麦かの別							
	2								
	(II-1-2)	3	春播						
	4								
	Winter or spring wheat	5a							
	5b		秋播						
3. 鞘葉の色 **	1	鞘葉の色							
	2	出芽揃期におけるアントシアノンの有無	0	無	ホロシリ	キタカミ	—	農林61号	シラサギ
	(I-1-3)	3 観察						農林61号	農林61号
	Coleoptile color	4							
	5a		1	有	—	フルツマサリー		農林64号	—
	5b								ヒヨク

F. 【特性調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(58)
4. 葉性 *	1	節間伸長開始前の草姿・草状	1						
	2	直立型、中間型、匍匐型 (I-1-1) 茎立ち前（1～2月）の草姿	2 極直 3 直立 4 や直立 5 中 6 や匍匐 7 匍匐 8 極匍匐 9	— ホロシリ — トヨホ — ハチマン ナシブ — —	— — 農林61号 農林61号 農林64号 ミクニ ミクニ — —	— — 農林61号 シラサギ 農林61号 — — — —	— — 農林61号 ヒヨク — — —	— サキガケ 農林61号 — — — —	
	Growth habit	但し、根雪のある場合は根雪前の 草姿 付2を参照							
	3 観察								
	4								
	5a								
	5b								

5. 葉の柔剛

- | | | |
|---------------|----|-------|
| Leaf hardness | 1 | 葉の固さ |
| | 2 | 剛、中、軟 |
| | 3 | 観察 |
| | 4 | |
| | 5a | |
| | 5b | |
| | | |

6. 止葉の形

- | | | |
|-----------------|----|---------------|
| Flag leaf shape | 1 | 止葉の形 |
| | 2 | 穂孕期～結実初期に調査する |
| | 3 | 観察 |
| | 4 | |
| | 5a | |
| | 5b | |
| | | |

7. 止葉の大小 1 止葉の大きさ
2 穂孕期～結実初期に調査する
Flag leaf size 3 観察
4
5a
5b

8. 葉耳の有無 1 葉耳の有無
2
Presence of 3 観察
auricle 4
5a
5b

9. 葉耳の色 1 葉耳の色
2 紅、紫、白に分ける
Auricle color 3 観察
4
5a
5b

F. 【特性調査】

番号 階級区分 塞地 塞冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (60)

10. 葉舌の有無	1 葉舌の有無							
	2							
Presence of ligule	3 観察							
	4							
	5a							
	5b							
11. 葉鞘のワックスの 多少	1 出穂期における上位第1葉鞘のろ う質の多少	0 無	ホロシリ	—	—	—	—	—
		1						
(I-3-2)	2	極少	—	—	—	—	—	—
	3 観察	3 少	—	キタカミ	ミクニ	農林61号	—	—
	4	やゝ少	—	—	—	—	—	チクシ
Degree of leaf sheath waxiness	5a	5 中	—	ハチマン	—	—	シラサギ	農林61号
	5b	6 やゝ多	—	—	—	—	—	ゴガツ
		7 多	—	ハナガサ	農林27号	アオバ	—	—
		8 極多	—	—	—	—	—	—
		9						
12. 葉鞘の毛の有無 · 多少	1 葉鞘の毛耳の有無とその多少	0 無	ホロシリ	ナップ	—	—	シラサギ	—
	2	1						
(I-3-3)	3 観察	2 極少	—	—	—	—	—	—
	4	3 少	—	—	—	—	—	—
	5a	4 やゝ少	—	—	—	—	—	—
Degree of leaf sheath pubescence	5b	5 中	—	—	—	農林61号	—	農林61号
		6 やゝ多	—	—	—	—	—	—
		7 多	—	チモフエビ	—	—	—	—
		8 極多	—	—	—	—	—	—
		9						

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 曖地 (61)

13. 葉身の下垂度 (I -3-4) Leaf blade angle	1 穂揃期における生葉の下垂程度	0 無	—	—	—	—	—
	2	1					
	3 観察	2 極小	—	シモフサ	—	—	—
	4	3 小	—	—	—	オマセ	—
	5a	4 やゝ小	—	—	ミクニ	—	—
	5b	5 中	ハルヒカリ	—	農林27号	農林61号	農林61号
		6 やゝ大	--	ナンブ	農林69号	—	—
		7 大	ホロシリ	—	—	フジミ	ヒヨク
		8 極大	--	—	—	—	—
9							
14. フレッケンの有無・多少 (I -3-5) Degree of " Flecken "	1 穂揃期における葉身の淡黄色斑点 の有無とその多少	0 無	ホロシリ	キタカミ	—	ウシオ	—
	2	1					
	3 観察	2 極少	—	—	—	—	農林61号
	4	3 少	—	—	—	農林61号	シラサギ
	5a	4 やゝ少	—	—	—	—	—
	5b	5 中	—	—	—	オマセ	オマセ
		6 やゝ多	—	ヒツミ	—	—	オマセ
		7 多	--	—	—	—	—
		8 極多	--	—	—	—	—
9							
15. 薬の色 (I -6-3) Anther color	1 薬の色						
	2 黄、紫などの別						
	3 観察	2 黄	ホロシリ	キタカミ	ミクニ	農林61号	シラサギ
	4						農林61号
	5a						
	5b						
		8 紫	--	—	—	—	—

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (62)

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地

(63)

19. 芒の粗滑	1 芒刺の有無
	2
Smoothness of awn	3 観察
	4
	5a
	5b

Awn length (I -5-2)	1 芒の長さ	1
	2 ① 最長芒の長さを20穂について測る	2 極短
		3 短
		4 やゝ短
	により判定	5 中
	3 測定、観察	6 やゝ長
	4 cm	7 長
	5a 0.1	8 極長
	5b 0.1	9

Size of brush area of grain (I -7-4)	1 頂毛のある部位の大きさ	1
	2	2 極小
	3 観察	3 小
	4	4 やゝ小
	5a	5 中
	5b	6 やゝ大
		7 大
		8 極大
		9

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (64)

F. 【特性調査】

番号 階級区分 塞地 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (65)

F. 【特性調査】

	番号	階級区分	寒地	寒冷地	温暖東部-1	温暖東部-2	温暖西部	暖地	(66)
28. 粒着の粗密 **	1	小穂の着生密度	1						
(I-4-3)	2	穗軸節間数（全小穂数-1）を穗軸長(cm)にて除したもの	2 極疎	—	—	—	—	—	
Spikelet density	3	生育順調な穂10本につき調査するあるいは観察による	3 疎	—	ミヤギノ	伊賀筑後オレゴン	ヒヨク	—	ヒヨク
	2	測定・観察	4 やゝ疎	—	オク	農林69号	—	—	農林61号
	3		5 中	ハルヒカリ	ハチマン	農林27号	農林61号	シラサギ	チクシ
	4		6 やゝ密	—	キタカミ	—	—	—	アサカゼ
	5a	0.1	7 密	ホロシリ	シモフサ	—	フジミ	—	セト
	5b	0.1	8 極密	—	—	—	—	—	
			9						
29. 粒形 **	1	原麦粒の形	1						
(I-7-1)	2	1例であるが、粒長の粒幅に対する比率は最右欄のようである	2 極円	—	—	—	—	—	(1.84以下)
Grain shape	3	測定・観察	3 円	—	—	—	—	—	(1.85~1.90)
	4		4 やゝ円	—	ヒツミ	ミクニ	オマセ	—	アサカゼ (1.91~1.96)
	5		5 中	ホロシリ	キタカミ	—	農林61号	オマセ	農林61号 (1.97~2.03)
	5a		6 やゝ長	—	ハチマン	農林27号	—	シラサギ	ヒヨク (2.04~2.09)
	5b		7 長	ハルヒカリ	オク	ゼンコウジ	ゼンコウジ	—	(2.10~2.15)
			8 極長	—	—	—	—	—	(2.16以上)
			9						
30. 粒の大小 **	1	原麦粒の大小の程度	1						
(I-7-2)	2	1例であるが、粒の大小の程度を千粒重で示せば最右欄のようである	2 極小	—	—	—	—	—	(29g 以下)
Grain size	3	測定・観察	3 小	—	—	—	—	—	(30~32)
	4		4 やゝ小	—	ヒツミ	ミクニ	オマセ	—	ダンチ (33~35)
	5		5 中	—	キタカミ	農林27号	—	オマセ	農林61号 (36~38)
	6		6 やゝ大	—	ハチマン	—	農林61号	シラサギ	アサカゼ (38~40)
	7		7 大	ホロシリ	フルツマサリ	農林69号	ヒヨク	—	ヒヨク (41~42)
	8		8 極大	—	—	—	—	—	
			9						

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (71)

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 温暖東部-1 温暖東部-2 温暖西部 暖地 (73)

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地 溫暖東部-1 溫暖東部-2 溫暖西部 暖地 (74)

52. 稳性回復遺伝子 の有無 (II-15)	1 稳性回復遺伝子の有無 2 3 4 5a	0 無 1 有	—	—	—	—	—	—
Presence of restorer gene	5b							

付 1

秋播性程度検定標準品種

I . . . 埼 玉 27 号 II . . . 新 中 長 III . . . 赤 坊 主

IVa . . 農 林 4 号 IVb . . 細 程 IVc . . 赤 小 麦

Va . . 小 麦 新 1 号 Vb . . 農 林 27 号 VI . . 赤 皮 赤

VII . . 赤 錫 不 知 1 号

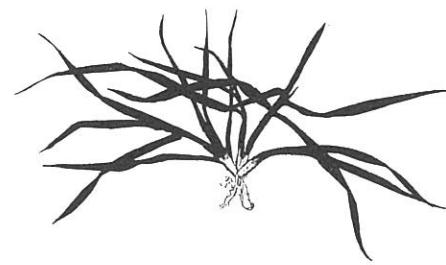
付 2 簇 性



直 立 型

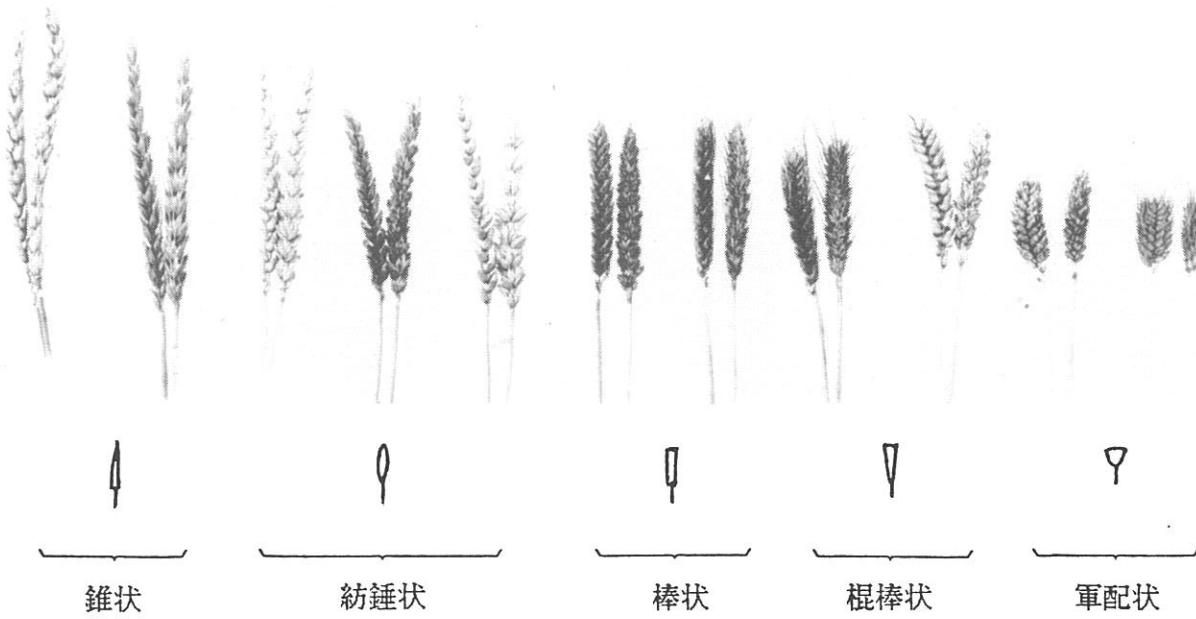


中 間 型



匍 匐 型

付 3 穗 型



		さ	く	し	ん		
あ 行						た 行	
	旱害	25	粉の明るさ	52	出穂まで日数	19	
	稈基重	40	粉の色づき	52	出穂遅延日数	20	
赤かび病抵抗性	70	稈重	40	粉の白さ	52	耐寒性	68
赤さび病抵抗性 ①	71	稈長	33	根数	35	耐湿性	69
" ②	71	稈の剛柔	28	根重	41	耐雪性	69
" ③	72	稈の細太	28	根色	64	耐凍上性	69
" ④	72	稈のワックスの多少	62	根長	34	耐倒伏性	68
" ⑤	72	乾物重	38			脱粒性	67
a 当り屑麦重	48	乾物重歩合	39				
a 当り子実重	47			さ 行			
a 当り全重	46	生地の力の程度 (エキステソンの面積)	54	最高粘度	55	地上部生体重	38
萎縮病抵抗性	70	起生期	17	最高分けつ期	9	地上部風乾重	39
1 小穂当たり粒数	45	吸水率	53	細胞質雄性不稔		地中茎長	34
1 ℥重	48			遺伝子の有無	73	虫害	24
		茎立期	17	酸性の害	27	生育口数	23
うどんこ病抵抗性	71	茎立性	18			生育良否	15
		草丈	7	子実重	47	成熟期	22
越冬株歩合	15	屑麦重	47	湿害	25	生葉数	10
		屑麦千粒重	49	穂萎縮病抵抗性	70	製粉歩留	51
黄熟期	22	黒さび病抵抗性	73	収量性	36	整粒千粒重	49
遅れ穂数	31			出芽期	4	整粒歩合	46
		形状係数	55	出芽後の生育の良否	6	雪害	25
か 行		茎数	7	出芽数	5	節間伸長開始期	18
		結実口数	22	出芽整否	5	節間長	33
		減数分裂期	17	出芽揃	4	全重	46
開花期	21	原麦粗蛋白質含量	51	出芽口数	4	千粒重	48
株の開閉	28	原麦粒のみかけの品質	50	出芽始	3	乳熟期	21
枯葉数	12			出芽良否	5	総根長	34
寒害	24			出穂始	19	穂実小穂数	43
						穂実小穂数歩合	43
						穂実粒数	45
						穂性回復遺伝子の有無	74

は 行	風乾重歩合	39	穂長	29	葉鞘長	14	60%粉粗蛋白質含量	52
	糙質含量	56	穂の抽出度	32	葉鞘の毛の有無・多少	60		
発芽始	1	稃色	64	穂発芽性	29	葉鞘のワックスの多少	60	
発芽期	1	不稔実小穗数	44	穂孕期	18	葉耳の色	59	わ 行
発芽整否	2	稃毛の有無	64	芒の色	62	葉耳の有無	59	
発芽勢	3	分けつ開始期	8	芒の有無・多少	62	葉身長	13	ワックスの多少
発芽揃	1	分けつ最盛期	8	芒の粗滑	63	葉身の下垂度	61	
発芽日数	2	分けつ終期	10	芒の長短	63	葉身巾	14	
発芽率	3	分けつ数	8			幼穂形成期	16	
発芽良否	2	フレッケンの有無・多少	61			幼穂長	16	
葉の黄化期	11			ま 行		幼穂形成始期	16	
葉の柔剛	58	平均稈長	33			葉舌の有無	60	
葉の寿命	12	平均 1 穗当り小穗数	42	播性の程度	57	葉面積	14	
春播・秋播の別	57	平均 1 穗重	36			葉面積指數	15	
バリリメーター		♂当り遅れ穂数	31	ミリングスコア	51	葉齡	13	
バリュウ	54	♂当り稈重	40			葉齡指數	13	
晩霜害	26	♂当り茎数	7	無効分けつ期間	10			
		♂当り出芽数	6					
被害小穂数	42	♂当り小花数	44			ら 行		
被害発生状況	23	♂当り小穂数	42	や 行				
被害穂数	32	♂当り被害小穂数	43			粒形	66	
1 株穂重	36	♂当り被害穂数	32	薬の色	61	粒着の粗密	66	
1 株粒重	38	♂当り穂数	30			粒の色	67	
1 穂重	36	♂当り有効穂数	30	有効莖歩合	41	粒の硝子質の程度	67	
1 穂小穂数	41			有効分けつ期間	9	粒の黒目の有無	50	
1 穂粒重	36	穂型	65	有効分けつ決定期	9	粒の硬軟	68	
1 穂粒数	45	穂重歩合	37	有効穂数	30	粒の大小	66	
病害	24	穂数	29	有効穂数歩合	31	粒の品質	50	
		穂摘期	20					
風害	26	穂摘日数	21	葉色	12	60%灰分含量	52	

あ　と　が　き

昭和 55 年度の麦類試験研究総括検討会議において、新しい情勢に応じた麦類の調査基準を策定することが決定され、関係者によって作業を進めてきた。その結果、小麦について一応の取まとめを終り、印刷に付すこととした。

策定を決定してから今日まで意外に時間を取ったが、それぞれの項目について、定義、調査方法等簡単には決しきれない場合も多くあり、関係者間で往復検討等を重ねてきたためである。まだ、不備な点も少くないが、完全を期すということになればさらに多くの時間を要し、策定の本来の目的である“利用”という点からはますます遠のことになる。ここに“第 1 版”としてあえて刊行することとした次第である。

不十分な点は、今後、機会あるごとに修正をはかり、より充実したものにしていきたいので、忌憚のない御意見をお寄せ頂ければ幸いである。

1986年3月

農業研究センター作物第二部長

増田澄夫

小麦調査基準策定関係者

策定責任者 農業研究センター作物第二部長（農事試験場麦類担当総合研究官）

事務局 農業研究センター作物第二部麦栽培研究室（農事試験場畑作研究センター麦栽培研究室）

参画研究室 北海道農業試験場作物第一部畑作物第1研究室
東北農業試験場栽培第二部作物第1研究室
　　〃 作物第2研究室
　　〃 作物第6研究室
北陸農業試験場作物部作物第5研究室
中国農業試験場作物部作物第2研究室
　　〃 作物第5研究室
九州農業試験場作物第一部作物第3研究室
　　〃 作物第5研究室
農地利用部作物導入研究室
北見農業試験場小麦育種指定試験地
長野県農事試験場麦育種指定試験地
農業研究センター作物第二部小麦育種研究室
　　〃 麦育種法研究室
　　〃 麦導入保存研究室
　　〃 麦生理生態研究室

以上のはか、関東東海地域の各県農業試験場からは、資料提供等の御協力を頂いた。

() 内は昭和56年12月以前

